

輝きを放つオーナーをクローズアップ

Closeup Owner



一つの枠に収まらない 幾多の顔を持つ男

俳優であり新鋭ミュージシャン。そして新しいジャンルを切り開くパーソナルトレーナーとして活躍する周防進さん。その傍らにはいつも78年型シボレー・C10がいる。そんな彼とは一体どんな人物か。

Susumu Suoh

■写真：兵藤冬樹
■取材協力：(株)ブーミング ☎03-6240-6977 <http://www.booming.co.jp>
(株)サンライズジャパン ☎03-5784-2247 <http://www.so-le.com>

一発目のエンジン始動で アメ車の魔力に掛かつた

正直、第一印象はどうつきどくいんだろ?うなーと思った。経験上、この手の人達は年齢とか場所が関係なく、最初からアメ車線でくるから。良くてタメ口。チエケラッチャヨ的なアメ車(チエケラッチャヨって何さ?)。でもね、今回の主役である周防進(スオウ・ススム)さんは、そんな俺の独りよがりの感想が、もの凄くまずかしくなっちゃう低い姿勢。

「忙しいのに朝早くから来いませ」と。そんなことを言つたら、頑張るつきやしないでしょ?…

さて、周防進と聞いて「おや?」と思う人は、かなりの芸能通。俳優としても活動する周防さんは、トム・クルーズ主演の映画「ラストサムライ」でトムの脇を固める武士として活躍。さらに滝澤洋介主演の「ピンポン」では、中村錦が演じるスキンヘッド車団の一員として劇中を盛り上げるなど、期待の若手俳優でもある。

そんな彼が豪華として選んだのは78年型のシボレー・C10ステップサイド。最初はマグナムと日本興味を抱きアメ車に興味を持ったのだが、90年代前半サバーハンを見てイチコロ。その後知り合いで車両を紹介してもらつて、が、ナント見せられたサバーハンは72年型。「正直これがサバーハン?」って感じでした。でも、一発エンジンを掛け見て方があわづかれて振動も強し。今まで乗っていた国産車とほんとうに違

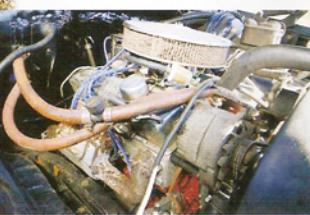
う生き物。まさに『エンジン』に乗る感覚」。クルマの機事がガラッと変わりましたね」と。

そしてアメ車の魔力に掛かつた周防さん。続けざまにC10を見せられた時には、「一瞬でもは次まつてじだ。

「今まで見たどのアメ車よりもインパクトが強く、ハートがギュッとつながったんです。作業着的なイメージのトラックだけどタフマックス。作業着で格好良く乗れるトラックなんで、日本車にはないでしょ?」



CHEVROLET C10



エンジンは350コンプリート4ポルトメインエンジンに載せ替え。ズットとくるパワーが自慢だ。



78年型とはいえ、音楽や映像の世界にいる人間だけに、その辺のシステムは最低限完備。バイザーモニター2基搭載。C10ダイキャストや不二子ちゃん、TOKYOTRIBE2のフィギュアなどがダッシュボードに花を添える。

「正直これがサバーハン?」って書いたけれど、周防進という人物には、色んな顔があるのでもうローブとして振動も強し。今まで乗っていた国産車とほんとうに違う、その正体は…

次のページから紹介!

